

山田潤じゆん一いち 新聞人。明治十八年二月十一日岐阜縣高須生れ、昭和二十六年十一月二日歿（八五—九六）。明治四十四年東京帝國大學（政治科）卒。滿鐵に入社後ドイツ留學を命ぜられてベルリンに滞在。日獨開戦の前日に脱出してイギリスに渡り、ロンドンの下宿先で執筆した『柏林脱出記』（大正四年一月十五日千章館）を出版した。大正九年辭職して滿鐵事件の経緯を記した『赤心録』を刊行。再び東京帝大に入學し、十一生獨法科を卒業後大阪毎日新聞社に入社、累進して重役、またマニラ新聞社社長を務めた。終戦と同時に退社、一時郷里に閑居して隨筆集『南十字星—新聞人の告白』（昭和二十四年九月）を大阪・新谷重活刊、創元社發賣）を著した。のち毎日球團社長。

